健活セミナー
カラダは食べた物からできている

健康寿命を延ばすために今できることはなにか？元気な100年のカギをお伝えします。

■日時　10月21日（金）午前10時30分～11時30分**■会場**　体育館・青少年センター**■定員**　40歳以上・30人**■講師**　管理栄養士（株式会社明治）**■持ち物**　筆記用具**■申し込み**　体育館受付窓口または電話で下記へ**■問い合わせ**　体育館・青少年センター☎31-8228

図書館・読書講演会
「浮世絵の中の西洋」

―日本文化を代表する浮世絵に西洋が隠れている―

歌川豊春画「浮絵　フランカイノ湊万里鐘響図」神戸市立博物館蔵

■日時　11月9日（水）午後2時～3時30分（30分前開場）**■会場**　図書館集会室**■定員**　成人30人**■講師**　岡泰正氏（神戸市立小磯記念美術館・神戸ゆかりの美術館 館長）**■申し込み**　10月11日正午から10月31日にホームページの受け付けフォームで申し込み**■問い合わせ**　図書館☎31-2301

あしや芸術さんぽ Vol.3

【美術博物館休館のご案内】7月1日～令和5年3月末（予定）は改修工事のため休館。今後の休館中の活動や工事後の再開館のスケジュールなどについては、随時ホームページでお知らせします。再開館予定は、令和5年4月上旬です。

美術博物館が休館の期間、芸術家達が切り取った芦屋と現在の風景を紹介するコラムを連載します。

吉原治良《鯔とチューリップ》1928年　油彩、布　芦屋市立美術博物館蔵

窓辺に置かれた大ぶりの魚、チューリップの球根が入った青い瓶、蟹、レモン。窓の向こうには海が広がり帆船が浮かびます。丹念に描かれた魚たちの質感とのどかな海景との取り合わせが、不思議なリアリティを醸し出しています。

作者の吉原治良（1905-1972）は1954年に芦屋で結成された前衛美術集団「具体美術協会（具体）」のリーダーとして今や世界的に有名ですが、本作を描いた1928年頃は彼の画業の中で「魚の時代」と言われます。「朝、市場に出かけて買ってきた魚を絵にかいて晩にはたべてしまうというやり方でたくさん絵ができた」*1と語るように、当時23歳の吉原はこの頃、魚をモチーフにした静物画を多く描いていました。同年11月に大阪朝日会館で開催した初の個展で、魚の作品を中心に約60点を出品、好評を博します。

魚を中心にしたモチーフと窓から見える風景で構成した画面がこの時期の特徴ですが、本作に描かれる海は公光町にあった吉原の自宅からは見ることができない風景です。当時吉原が慕っていた先輩画家・上山二郎（1895-1945）の、現在の松浜町（芦屋公園の南東）にあった自宅から見た風景であるといわれています。

幼いころから絵が得意だった吉原は14歳のときに油絵の道具を購入して、独学で油絵を始めました。関西学院大学商業部在学中の1927年頃に上山と知り合い、その自宅をたびたび訪れるようになります。パリで藤田嗣治らと活動しサロン入選経験もあった上山の経験談を聞き、新作を見せてもらうなどしていたようです。家業（吉原製油株式会社）を継ぐことを定められ、絵は独学で学ぶほかなかった吉原にとって上山は初めて接するプロの画家、眩しい存在であったことでしょう。「オリジナリティーとパーソナリティーが何より大切なことを口をすっぱくして教えられた（中略）私の生涯で最も大きな影響を受けた人はやはり上山さんをおいて他にはないと思っている」*2と吉原はのちに語っています。本作にもみられるように姓を英語、名前を漢字で書いたサインも上山の影響で、上山自身は藤田嗣治にならいこの書き方をしていました。

吉原が上山宅から見ていた海の範囲は現在埋立地となり、本作のように海を見下ろすことができる地点はずっと南へ移りました（写真）。本作では、見る者の視線はまず手前の魚たちに惹きつけられ、奥に広がる海へと導かれます。ずっと遠くまで見通せる海ののどかな広がりは、手前のモチーフの横並びの配置と生々しい質感の描写によって強調されています。上山と過ごすひとときにしか描けないこの光景を、大切に表現しようとした吉原の思いが伝わってきます。

現在の芦屋浜（緑町）

*1　吉原治良「わが心の自叙伝」「④二科会初入選のころ―魚の静物から抽象画へ新鮮さのとりこに」（『神戸新聞』1967年6月25日）

*2　吉原治良「わが心の自叙伝」「③関西学院高等商業部のころ―上山二郎さんから最も大きな影響」（『神戸新聞』1967年6月18日）

来月は、吉原治良とも親交を持ち、ともに戦後日本の抽象絵画のパイオニアとなった芸術家・長谷川三郎の作品を紹介します。

問い合わせ　美術博物館　☎38-5432